

講義コード	513138903	
講義名	日本国憲法 EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤教員	原田 いづみ	女子短期大学部
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

【授業の概要】

日本国憲法の基礎的理解に向け、取り上げられたテーマに関する重要事項を学ぶ。

【授業の方法】

- ① 授業では、教科書を活用する。
- ② 講義形式である。
- ③ 質問はTeams内のアンケート機能で受け付ける。
- ④ 7回目に中間クイズにより理解度を確認する。
- ⑤ 期末テストに代えて期末レポートを課す。

授業の到達目標及びテーマ

憲法上の基礎的な諸概念や日本国憲法の基本構造・基本思想を説明することができる。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に④を重視する。

幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1.諸領域(人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成)の学問分野における基礎的知識をもっている。」を達成するための科目である。

授業計画表

日本国憲法

回	項目
第1回	オリエンテーション 立憲主義、憲法とは (テキスト第1章)
第2回	人権とは (1) (テキスト第8章)
第3回	人権とは (2) (テキスト第9章)
第4回	信教の自由と政教分離 (テキスト第10章)
第5回	表現の自由 (テキスト第11章)
第6回	経済的自由 (テキスト第12章)
第7回	社会権 (テキスト第14章) 中間クイズを実施
第8回	幸福追求権と平等原則 (テキスト第15章)
第9回	国会 (テキスト第3章)
第10回	選挙と参政権 (テキスト第2章)
第11回	内閣 (テキスト第4章)
第12回	司法権と違憲審査制 (テキスト第5章)

第 回	天皇制（テキスト第6章）
第14回	平和主義（テキスト第7章）
第15回	人身の自由（テキスト第13章）
第16回	期末テストに代えて期末レポート

授業時間外の学修

テキストの予め指示された該当部分を必ず読み、疑問点を意識しながら、授業に臨むこと。予習に要する時間は90分。
毎回の授業内容を復習し、テキストをもう一度読み直し整理すること。要する時間は90分。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
	○	○	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を越えた自主的な学修が行うことができていると認められる。	授業内容をほぼ95%程度理解していて、自主的な学修も少し行うことができていると認められる。	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる。	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている。
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる。	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる。	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいことから、助言を行っている。
調査能力	自ら進んでテーマのみならずその周辺問題について調べることができる。	テーマについて自分の力で調べることができる。	テーマについて調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある。	テーマについて調べることができない、もしくは内容が不十分である。
レポート力	テーマについて、授業で紹介した方法及びそれに類する独自の的方法により検討が十分になされている。	テーマについて、授業で紹介した方法で検討が十分になされている。	テーマについて、授業で紹介した方法で検討がなされている。	テーマについての検討がなされていない。

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	20%	毎回終了後に小クイズを実施 7回目に中間クイズを実施
成果発表		
授業への貢献度		

レポート	80%	期末テストに代えて期末レポートを課す。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する		

ICTを活用した双方向型授業の内容

等 ム 用	クリッカー、アンケート、小テスト ビデオ会議システム メール等の活用
-------------	--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
選 用 用 発問の吟味・精 グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用		

教科書

駒村圭吾編 「プレステップ憲法〈第3版〉」（弘文堂、2021年）

参考書

授業を進める中で適宜示す。

SDGsとの関連

に	4. 質の高い教育をみんな
---	---------------

特記事項等

原則としてオンライン授業により行う。場合によっては課題提出型を行うこともある。
資料がある場合も各回のチャンネルにアップしますので確認してください。
出席はTeamsの出席者リスト機能により把握する。

学生へのメッセージ

質問については、Teams上の各回アンケート機能を利用して行ってください。

研究室（訪問先等）

連絡は原則メールでしてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

harada.izumi@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

毎回終了後の小クイズと7回目の中間クイズ（20%）及び期末テストに代えて実施する期末レポート（80%）による評価

により行う。授業内容、特に重要テーマの理解度を判定し、60点以上を合格とする。